

2024年
海外トピックス
台湾

台湾駐在員報告

駐在員：市川 美奈子

行政

「2023年国際酒類プロモーション」に出展

12月8日、台北市で行われた「2023年国際酒類産品貿易推廣會（2023年国際酒類プロモーション）」に出展し、静岡県産の地酒のPRを行った。

今回の展示会は、台湾企業約6,500社が加盟する「台北市進出口商業同業公会（IEAT）」が主催し、約70の団体が参加したものである。世界各地の500種類以上の酒類が出品され、会場内は多くの参加者で賑わっていた。当事務所では、県産食品の販路拡大のため台湾に配置している輸出・販路開拓のアドバイザー「ふじのくに通商エキスパート」と連携し、静岡県産の日本酒6種をPRした。香り豊かな本県の日本酒は、来場者から好評を博していた。

「ふじのくに通商エキスパート」は、台湾で開催される食品展等における県産品のPRのほか、台湾における県産食品の販路開拓を検討する県内事業者からの相談等に対応可能である。台湾現地において食品関連のビジネスを展開している方からのアドバイスを受けられる制度であるため、台湾への輸出・販路拡大等でお悩みがあれば、お気軽に御相談いただきたい。



【会場内の様子】

※「しずおか農林水産物海外市場開拓研究会」への会員登録（会費無料）が必要

※詳細は <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/shokogyoservice/1003190/1025608.html>

社会・時事

台湾の音楽シーンを沸かす日本のアーティストたち

12月2日と3日、台北市で、「Simple Life 簡単生活節」という音楽フェスが開催された。3年ぶりの開催となった今回のフェスには2日間で約40組のアーティストが登場したが、一番の目玉は日本の音楽ユニット「YOASOBI」だった。このフェスがYOASOBIの台湾初公演だったためだ。小職は今回、運良くチケットを購入できたため、このフェスに参加してきた。

YOASOBIの出演は2日目の21時からだったが、熱心なファンたちは2日目の開場と同時にステージ前に待機し、YOASOBIの登場を今か今かと待っていた。観客の9割以上は台湾の方だったが、皆、日本語の歌詞を完璧にマスターしていたことに驚かされた。

なお、1月には新北市でYOASOBIの台湾初の単独公演が予定されている。10月にこの公演のチケットが発売された際には16万人が争奪戦を繰り広げ、2,000枚のチケットがたったの1秒で完売するという、名実ともに「秒殺」状態となった。

また、SNSで話題になっている日本のダンスグループ「アバンギャルディ」が、2月に、社団法人中華文化總會（会長：蔡英文総統）が製作する旧正月特別番組へ出演することが決定している。アバンギャルディは、同番組に出演する唯一の海外グループである。

このような注目を集めているのは、YOASOBIやアバンギャルディなどのプロのアーティストだけではない。日本の高校の吹奏楽部が、今、台湾で大変な人気である。社団法人中華文化總會が、2022年は京都橘高校吹奏楽部、2023年は東京農業大学第二高等学校吹奏楽部を、台湾の建国記念日の祝賀式典に招いた。両校とも一糸乱れぬマーチングで、多くのファンを獲得した。京都橘高校吹奏楽部は今年12月にも訪台し、高雄市の特設会場でパフォーマンスを披露したところ、8万5千人もの観客が押し寄せたそうである。また、高雄市のライトレールには、京都橘高校吹奏楽部をモチーフにしたラッピング車両も走っている。

現地の熱狂ぶりを見る限り、日本のアーティストたちの人気はまだしばらく続きそうだ。

台湾駐在員報告

駐在員：市川 美奈子

経済

「高雄－静岡チャーター便」運航開始 高雄で静岡県観光商談会を開催

2024年1月19日、高雄－静岡チャーター便が富士山静岡空港に到着した。富士山静岡空港に台湾からの国際線が再開するのは3年11か月ぶりであり、空港は、放水アーチによる到着便の歓迎や、ゆるキャラによるお出迎え、搭乗者へのノベルティ配付などで大いに賑わった。

今回のチャーター便は、1月19日から3月29日までの約2か月半、週3往復で運航される。原則としてインバウンド（台湾発）の団体旅行用だが、初便（1月19日）と2便目（1月21日）は、アウトバウンド（静岡発）での利用が可能となった。このことを受け、各所に利用を呼び掛けた結果、静岡発高雄行きの便には、2便に計61名が搭乗した。小職は2日も高雄国際空港でお出迎えをしたが、台湾に取材に来られた方、台湾周遊ツアーに参加された方、出張で台湾南部にセールスに行かれる方など、台湾に来られた目的はさまざまであり、多様な用途で同便を御利用いただけたことを大変嬉しく感じた。

また、1月22日には、高雄市内で、台湾南部の旅行会社を対象とした静岡県観光商談会を開催した。本県からは自治体や事業者など10団体が参加し、台湾の旅行会社との間で、熱心な商談が行われていた。旅行会社からは「新しくオープンした施設の情報や、浜名湖花博の情報、ゴルフ場の情報など、様々な情報を得られて非常に良かった」との嬉しい声をいただいた。

今回のチャーター便運航と現地での商談会を無事に開催できたのは、ひとえに関係者の皆様の尽力の賜物である。皆様のお力添えに、心からの感謝の意を表したい。



【高雄市内での商談会】

社会・時事

台湾総統選 開票作業を見学

1月13日、台湾では4年に一度の総統選挙が行われた。世界が注目する総統選を是非この目で見届けたいと思っていたところ、弊所のスタッフから「開票作業は誰でも見学できますよ。外国人でもOK」との驚きの情報を得て、息子や友人一家と共に、投開票場に足を運んだ。

投開票場は近隣の小学校。16時に投票が締め切れ、締切後に開票作業が始まる。コロナ禍中、デジタル行政で世界からの称賛を集めた台湾だから、投開票もきっとデジタルに違いない・・・と、勝手に思っていた。しかし投票は日本と同じく、紙に候補者の氏名を記入して投票箱に入れていくスタイル。開票は1組数名で行われ、投票箱から票を取り出して紙に書かれた氏名を読み上げる人、氏名を復唱して規定の用紙に「正」の字で得票数を記入する人、それらの作業に間違いがないか目視で確認する人などから成り立っており、意外なほどにアナログであった。ただし開票状況の途中経過は選挙管理委員とおぼしき人がグループLINEで報告するなど、デジタルとアナログの融合度合いが興味深かった。

今回の選挙の結果、民主進歩党（民進党）が、台湾史上初となる「3期連続政権」を担うことになった。現副総統の頼清徳（らい・せいとく）氏は、今年5月に新総統に就任する。ただし立法院（議会）の第一党は中国国民党（国民党）という、「ねじれ」状態だ。今後の政権運営に注目したい。



【投票場所を伝える貼り紙】

台湾駐在員報告

駐在員：市川 美奈子

行政

「屏東県熱帯農業博覧会」に静岡県ブースを出展

2024年2月3日から3月3日にかけて、台湾南部の屏東県で「屏東県熱帯農業博覧会」が開催された。屏東県政府からのお招きをいただき、同イベントに本県ブースを出展した。

同イベントは屏東県政府が農業の振興を目的に主催しているもので、2022年の来場者は196万人を誇る大規模イベントだ。今年はイベント会場内に、屏東県と日本の交流や日本の観光情報などを紹介する「日本館」が設けられ、日本の自治体・民間企業など約20の団体がブース出展を行っていた。

本県ブースでは、県内観光地の魅力と併せて、1月19日から3月29日まで運航されている「高雄－静岡チャーター便」利用の旅行商品もPRした。高雄市の南部にある高雄国際空港は、高雄市だけでなく、屏東県からのアクセスも良い。今回の出展を機に、屏東県から多くの方が本県を訪れてくれることを期待したい。



【静岡県ブース】

社会・時事

旧正月の風物詩「ランタンフェスティバル」

台湾では、旧暦の1月15日は「元宵節（げんしょうせつ）」と言われ、各地でさまざまな祭りが開催される。とりわけ多いのが「ランタンフェスティバル」だ。しかしこの「ランタン」、実は2種類あることを御存知だろうか。

ひとつは、巨大なオブジェをライトアップするタイプ。青森の「ねぶた」のようなものだ。オブジェの高さは、大きいものだと20メートルを超すこともある。その年の干支をモチーフにすることが多く、今年は龍のランタンがたくさん見られた。

もうひとつは、新北市の「平溪区（へいけいく）」という山間地で飛ばすことができるランタン。こちらのランタンは大人がすっぽりとするくらいの大きさで、紙製。下から火を入れると熱気球の原理で空に上がっていくので、上述のランタンと区別するために「スカイランタン」とも言われている。三国時代の軍師である諸葛亮が、遠く離れた軍の情勢を伝えるために打ち上げたのが由来だそう。

平溪区では毎年、元宵節の前後に「平溪ランタンフェスティバル」が行われている。26年目を迎えた今年は2月17日と24日に開催され、合計2,000個以上のランタンが放たれた。無数のランタンが一斉に夜空へと舞い上がる様子は、非常に幻想的だった。

ただ、いかんせん山間地である。実は平溪区の人口はわずか4,000人。一方で同イベントの来場者数は、数万人ともそれ以上とも言われている。たった1日（厳密にはわずか数時間）で山間地に大量の観光客が殺到するため、平溪区を管轄する新北市政府が、全力を挙げて同イベントに対応している。交通が不便な場所であるためシャトルバスの確保が不可欠であるし、火を使うイベントであるため、消防局の協力も欠かせない（小職の隣にいた人たちのランタンは、残念ながら放つ直前に燃えてしまい、消防士が消火活動にあっていた）。

同イベントを無事故で終えるためには、各所との相当の調整と連携が必要に違いない。行政職員として、主催者の苦労と熱意に頭が下がる思いだった。



【平溪ランタンフェスティバル】

台湾駐在員報告

駐在員：市川 美奈子

経済

台湾ファミリーマートと連携した本県プロモーション

2024年3月6日から29日まで、台湾ファミリーマートと連携した本県プロモーションを実施した。台北市内のファミリーマート1店舗を当事務所のキャラクター「静岡兄弟」でラッピングし、デジタルサイネージを有する店舗（約2,500店）において本県のPR動画を流す。さらには台湾ファミリーマートのアプリにおいて本県のPR記事を配信するというメディアミックスの試みだ。

今回の連携のきっかけとなったのは、台湾ファミリーマートの「全家抹茶技（ファミリーマート抹茶フェア）」である。台湾ファミリーマートから、3月に抹茶フェアを計画しており、同フェアで販売する抹茶スイーツには静岡県産抹茶を使う予定だと聞いた。これはぜひ連携したいと申し出たところ、抹茶フェアに合わせて本県のプロモーションを展開できることになった。抹茶フェアでは「静岡抹茶ソフトクリーム」や「静岡抹茶ラテ」などの商品が販売され、台湾に居ながらにして静岡づくりのメニューを味わうことができた。

ちなみにファミリーマートは台湾で4,200店以上の店舗を有しており、店舗の分布は文字通り、台湾全土に及んでいる。3月に台湾の離島に行く機会があったのだが、行く先々でファミリーマートを見かけた。離島の店舗にもデジタルサイネージが設置されているのを見て、「ここでも静岡の動画が流れているのか・・・！」と、感慨深い思いがした。

今後も様々な切り口から本県のPRを行っていきたい。



【ラッピング店舗（外観）】



【ラッピング店舗（内観）】



【静岡抹茶ソフト】

社会・時事

Youbikeの30分無料化

台北の街中では至る所に「Youbike（ユーバイク）」というシェアサイクルがある。その浸透ぶりは、Googleマップを開けば「目的地までは自転車で〇分」という表示が出てくるほどだ。それだけでない。出発地付近のどこにYoubikeステーションがあって、使用可能な自転車が何台あり、目的地付近には何台分のラックが空いているかという情報もGoogleマップで表示される。それほどまでに市民生活に浸透しているサービスなのである。

このYoubike、最初の30分が5元（約25円）というリーズナブルなサービスだったが、2024年2月28日から、最初の30分が無料となった。Youbikeは「職場から地下鉄まで」「自宅からスーパーまで」など近距離の移動に利用されることが多く、30分以上乗る人は少数派であることを考えると、実質的な無料政策とも言えるだろう。30分無料にした理由は、二酸化炭素排出量の削減と、低炭素なグリーンモビリティの利用率向上のためだそう。

Youbikeは、アプリをインストールしクレジットカードを登録すれば、旅行者でも簡単に使うことができる。台湾へお越しの際には是非体験してみたい。

台湾駐在員報告

駐在員：市川 美奈子

社会・時事

「花蓮地震」発生当時の状況と現地の声

2024年4月3日午前7時58分頃(台湾時間。日本時間は8時58分頃)、台湾東部の花蓮(かれん)県沖でマグニチュード7.2の地震が発生。花蓮県で震度6強、台北市でも震度5弱を記録した。

4月3日当日、小職は出勤のため自宅を出るところで大きな揺れに見舞われた。マンション3階にある自宅では、吊り下げ式の2つのライトがぶつかり合いそうになりながら揺れていたが、物が落ちるなどの被害はなく、1分ほど続いた揺れが収まったところで急いで職場に向かった。しかし台北市内の地下鉄は運転を停止しており、タクシーも一向につかまらないなど、交通手段が脆弱化していることが伺えた(一方で、バスはほぼ通常通りに動いていた。また、地下鉄は1時間程度で運転を再開した)。

弊所のオフィスは台北市内にある築45年のビルの13階に位置している。地震発生当時、すでに出勤していたスタッフによると、職場の揺れはかなりの大きなもので、恐怖を感じたとのことであった。ただし4月末時点では、この規模の揺れは本震の1回のみであり、その後の余震はいずれも業務に支障がない程度におさまっている。



【地震直後、コピー機や引き出しが移動】



【ポスターやウォーターボトルが落下】

4月中旬に台北市内の日系ホテルの方々とは話をする機会があったが、多くの方が「地震の影響によるキャンセルが散見される」「日本のお客様から『今台湾に行くのは不謹慎でしょうか?』というお問い合わせが入っている」と嘆いていた。花蓮県で倒壊したマンションの映像が日本のニュースで繰り返し放送されたためか、日本国内の一部の方からは、台北も同じような状況だと思われるようだ。

4月11日、台湾交通部観光署と台湾観光協会は、日本と台湾の旅行事業者を集めたセミナーを東京で開催し、「台湾安心宣言」を発表した。同セミナーには周永暉(しゅうえいき)観光署長や台湾観光協会の葉菊蘭(ようきくらん)会長、台北駐日経済文化代表処の謝長廷(しゃちょうてい)代表らが出席し、地震発生後、鉄道は1日で、道路は3日で修復工事が完了したことが紹介された。台湾の日常生活やイベントは、震源地に近い花蓮県の一部地域を除いては通常通りだと強調し、日本側の関係者に向けて訪台を呼びかけていた。

台湾のほとんどの地域では日常生活が戻っているが、地震の影響で客足が鈍っているというのが現状である。今回の地震により台湾への渡航を迷っている方がいたら、是非、活力と魅力が満載の台湾を満喫しにきてほしい。

台湾駐在員報告

駐在員：市川 美奈子

行政

台北市内で「富士山セミナー」を開催

5月11日、台北市内で富士山セミナーを開催した。本セミナーには334名から応募があり、抽選で選ばれた106名が参加した。

日本の国家資格である通訳案内士で、登山家として活躍されている大樹氏（台湾人）をセミナーの講師に招き、富士登山の危険性や事前準備の重要性、富士山周辺の観光施設の紹介、日本全国に伝わる富士信仰など、多岐にわたる内容を紹介することができた。また、富士地域観光振興協議会担当者（富士宮市観光課職員）と富士山頂にある山小屋「頂上富士館」の宮崎氏にもオンラインで参加いただき、富士登山時の注意点などをクイズ形式でお伝えすることができた。

参加申込時に実施したアンケートでは、申込者の約96%にあたる320名が1年以内に日本に旅行へ行く予定があると回答しており、訪日意欲の高さが伺える結果となった。

参加者からの質問も「山梨県では富士吉田ルートに人数制限を設けると聞いたが、静岡県側の登山道ではどうなるのか」など、タイムリーな質問が多かった。富士山山開きに先立ち、対面でセミナーを行ったことで、参加者の疑問や懸念点を解消できたのではないかと感じている。

今後も、台湾の方にとってニーズの高いテーマを中心に、各種の情報発信を行っていきたい。



社会・時事

頼清徳政権がスタート

5月20日、民主進歩党の頼清徳（らい・せいとく）氏が中華民国（台湾）第16代総統に就任した。就任式典は台北市の総督府で開催され、同日夜に開催された公式晩餐会は、初めて台南市で開催された。台南市は、頼新総統がかつて市長を務め、蕭美琴（しょう・びきん）新副総統が幼少期を過ごした、両氏にとってゆかりの深い地であるためだ。同式典や関連行事に参加する海外からの来賓は51団体508名にのぼった。

頼新総統は就任式典で、「蔡英文前総統の路線を踏襲し、台湾を世界経済や地域の安定にとって欠かすことのできない存在にしてい」「卑屈にも傲慢にもならず、現状を維持する」と、台湾の現状維持を表明した。一方で中国を名指しして台湾への脅威に言及するなど、かなり踏み込んだ内容もあったように感じた。

就任式典の翌日、台湾在住の日系メディアの方や台湾人の有識者の方とお会いする機会があったため、今回の就任演説をどう見たかを聞いてみた。日系メディアの方は小職と同じく「踏み込んだ内容だった」と感じたそうだが、台湾人の有識者の方は「かつて行政院長を務めていた時代と比べると、対中国色をかなり抑えたものだった」と感じたようだ。いろいろな見方があるものだ。

台湾は、民主化以降初めて、同一政党が3期目を担うという新たな時代に突入した。国会は3党（民主進歩党、中国国民党、台湾民衆党）がいずれも過半数を占めていない状態となり、政権運営は難しい局面を迎えそうだ。頼総統の今後の政権運営に注目したい。

台湾駐在員報告

駐在員：市川 美奈子

行政

弊所 Facebook フォロワー数が10万人を突破

台湾では13歳以上の人口のうち約9割がSNSを利用しており、さらにその中の約9割が「Facebook」のユーザーだというデータがある。日本では利用者数が減少傾向にあるFacebookだが、台湾では今でも「最もよく使われているSNS」だ。

弊所では事務所開設当初から、「發現。五感静岡」というFacebookアカウントを運用し、週3～4回という高い頻度で記事を更新している。外部へ運営を委託するのではなく弊所スタッフが自ら情報を発掘し、台湾のフォロワーに響きやすい表現で投稿しているのが特徴だ。観光展・商談会・教育旅行説明会などの各所で弊所FacebookのPRを続けた結果、今年、フォロワー数は10万人を突破した。

これまでにさまざまな観光情報を投稿しているが、何気ない投稿が多く反響を生むこともある。静岡のいちごの品種の特徴を比較した投稿が1,000件近い「いいね」を獲得したり、富士山静岡空港に設置された「蛇口ももジュース」の投稿にたくさんのコメントがついたりするなど、フォロワーの反応から台湾人の興味関心が垣間見えるのが面白い。

弊所アカウントのフォロワーの6割は女性で、主な年代は30～50代。これは台湾の訪日旅行者のボリュームゾーンとほぼ一致している。これからもフォロワーに喜ばれる投稿を続け、本県のファンを増やしていきたい。

社会・時事

マンゴーシーズン最盛期

台湾といえば「マンゴーかき氷」を思い浮かべる人も多いのではないだろうか。台湾では4～9月がマンゴーの収穫期にあたる。特に屏東県と台南市が産地として名高い。日本人になじみが深い品種は「愛文マンゴー（日本語名：アップルマンゴー）」というもので、屏東県では5～6月、台南市では6～7月に最盛期を迎える。

小職は5月に屏東県の観光農園でマンゴー狩りを体験した。生産者により丁寧に袋掛けされたアップルマンゴーを、まずは袋の外から、熟しているかどうか判断する。熟しているものは、うっすらと灯がともったかのように、袋の外からでも赤く見えるのだそうだ。専用のハサミを使い、袋が掛かった状態のまま、枝の部分から丁寧にカットする。わずか1時間ほどの収穫体験で20個近いマンゴーを刈り取らせてもらった。真っ赤に熟したマンゴーは糖度が高く、本当においしかった。

なお、台南市政府はマンゴーの最盛期である6月下旬から7月中旬に、「台南国際マンゴー祭り」というイベントを開催し、台湾内外からの誘客を図っている。期間中の週末は台南市内の各産地でさまざまなイベントが開催されており、収穫体験ができる農園やマンゴーかき氷の店舗などをまとめたイラストマップがウェブ上で公開されている。

台湾の夏の風物詩、マンゴー。ぜひ、旬のこの季節に台湾を訪れ、おいしいマンゴーを味わってみてほしい。



【マンゴー農園での収穫】

台湾駐在員報告

駐在員：市川 美奈子

行政

フード台北 2024 に出展

6月26日から6月29日、台湾最大規模の国際総合食品見本市である「フード台北 2024」に出展した。同イベントの主催者である台湾貿易センター（TAITRA）によると、22カ国・地域から参加した約1,600の事業者が約4,500ブースを出展しており、来場者は4日間で約5万人にのぼったそうだ。

弊所では、台湾の大手電機メーカー「東元電機」の飲食部門である「東元餐飲集團」傘下の安心食品ブース内に静岡県ブースを設け、昨年比1.5倍となる36商品（14社）のPRを実施した。6月27日に開催された商談会（東元餐飲集團主催）では、会の最後に東元餐飲集團の役員による講話があったが、登壇した役員2名が2名とも本県の商材（お茶とわさび）について好意的なコメントをしてきており、非常に励みになった。

フード台北の主な来場者は、商社やスーパーのバイヤーやレストランのシェフなど飲食業界のプロの方々である。今回の出展を今後の販路開拓につなげられるよう、より一層のPRと、バイヤーからの問い合わせに対するきめ細かな対応を行っていきたい。



【フード台北商談会の様子】

社会・時事

台風3号、台湾社会に残した爪痕

台湾には「台風休暇」という特別休暇がある。風力と雨量が一定の基準に達すると見込まれる場合などに、地方自治体の首長が当該地域の休暇を発表する制度だ。

7月24日と7月25日には、「台風3号」の影響のため、各県市政府が相次いで「台風休暇」を発表した。台湾のほぼ全域（24日は金門県のみが通常出勤）で2日連続台風休暇となるのは史上初だったという。

台風3号は、7月25日午前0時ごろ宜蘭県に上陸。台北市内では一体どんな被害になるのかと身構えていたが、幸いなことに台北市内の雨風はそこまで強くはならず、約4時間半をかけて台湾本島を横断していった。

一方、台湾中南部は今回の台風で大打撃を受けた。高雄市内では、過去72時間の降雨量としては歴代5位の多さとなる1,914mmが観測され、史上初となる「市内全域3日連続の台風休暇」が発表された。特に被害がひどかった高雄市内の山間部では、7月末の時点で既に1週間以上も休暇が続いている。農作物の被害も甚大で、7月末時点での農作物の被害総額は28億1,876万元に達している。特に、グアバ、ナシ、バナナの被害が深刻だったようだ。

海と空の交通機関が遮断され、文字通り「孤島」となってしまった離島部も大変だった。ビーチリゾートとして人気の澎湖島には夏休みを利用して多くの人が押し寄せしており、結果的に台風で帰れなくなった人が続出した。7月25日から26日にかけて、澎湖島内の空港には4,000人以上の観光客が滞留していたそうだ。民間航空機のみでは到底輸送力が足りず、空軍が出動し、観光客が空軍輸送機で台湾本島に「輸送」される事態となった。

地震や台風などの自然災害が相次ぐ台湾だが、本格的な台風シーズンはまだこれから。「災害時の備え」を意識しながら、日々の生活を送りたい。

台湾駐在員報告

駐在員：市川 美奈子

行政

日台高雄フルーツ祭に初出展

弊所では8月24日～8月25日、台湾南部の高雄市内（高雄流行音楽中心海風広場）で開催された「2024 日台高雄フルーツ祭」に「静岡県ブース」を初出展し、静岡県産フルーツを使った食品や本県の観光PRを実施した。

同イベントは2022年から開催されており、3回目となる今年は高雄市政府と日本台湾交流協会の共催イベントとして、初めて高雄市で開催された。過去最多となる100以上のブースが出展し、会場への来場者は2日間で10万人を超え、非常に盛況なものとなった。

弊所が出展した「静岡県ブース」では、静岡県産果物を使用したジャムや炭酸飲料の試食・試飲を行い、台湾でこれらの商品を購入できるウェブサイトに来場者へ案内することで、県産品の販売促進を図った。また、弊所で作成したパンフレット等を配布し本県の食や観光地に関するPRを行ったところ、「静岡県産のフルーツを使った商品を購入したい」「美食を楽しむために静岡県に行きたい」等といった声が聞かれた。台湾のテレビ局による本県ブースの取材もあり、台湾南部を中心に、本県の食の魅力を広くPRできたと感じている。

今後も台湾各地において、静岡県の魅力発信および本県産品の販路拡大のための各種情報発信を行っていききたい。



【テレビ局による取材】

社会・時事

進化する台湾スイーツ

台湾のスイーツといえば「豆花（ドウホア）」（豆乳を硫酸カルシウム等の凝固剤で固め、芋団子や寒天などをトッピングしたもの）や「マンゴーかき氷」が伝統かつ定番だが、近年、洋風テイストを取り入れた店が人気を集めている。台北市内にある「Le buno」というフルーツジェラートの専門店がその筆頭格だ。

2023年12月にオープンしたばかりのこの店は、わずか半年足らずで、流行に敏感な台湾人たちの「打卡熱點（必ず行くべき場所）」に成長した。主な広告手法はInstagram。Instagramを眺めていると、よくこの店の広告が流れてくる。広告にはさまざまなバージョンがあり、日本人に向けたと思われるもの（日本語のテロップつき）もあるので、気になってつい見ってしまう。デジタルマーケティングにおいて非常に参考になる手法と言えよう。

この店の看板商品は、フルーツをくり抜いた「器」に盛り付けられたジェラートだ。ジェラートの見た目も店内デザインもInstagramで「映える」ものになっているが、台湾人の健康志向に合わせて低糖質に仕上げられており、味にも定評がある。気になるお値段は300元～400元（約1,500円～2,000円）前後。ちょっと躊躇してしまう金額だが、店内は「プチゼいたく」を求める台湾の若年層で賑わっていた。台湾に来られたら足を運んでみてはいかがだろうか。台湾のトレンドを肌で感じるができるだろう。



【Le bunoのジェラート】

台湾駐在員報告

駐在員：市川 美奈子

行政

台北市の防災教育イベントに出展

弊所では9月21日、台北市内の国父記念館で開催された「国家防災日」防災宣伝イベントに出展し、静岡県防災用品普及促進協議会の防災用品や、本県の防災に関する取組および防災をテーマとした青少年交流等についてPRを実施した。

台湾の防災関係者にとって9月21日は特別な日だ。1999年9月21日、台湾の南投県集集镇付近を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生し、2,400人を超える死者が出た。このため台湾の防災関連イベントは9月21日前後に開催されることが多い。今年は9月21日が土曜日だったため、9月21日には台湾各地で防災関連イベントが行われた。

今回の出展にあたっては、危機管理部や地域外交局と連携し、本県の防災に関する取組や、防災をテーマとした青少年交流に関するパネルを作成した。イベントの来場者には政府関係者も多く、パネルを見た台北市の関係者から、静岡県の「ジュニア防災士」の認証はどのような条件で取得できるのか、防災頭巾は静岡県内の全ての学校で配備されているのかなど、非常に熱心な質問があった。

台湾も日本と同様、地震多発地帯に位置している。台湾と本県、それぞれの知見や取組を相互に活かしていきたい。



【熱心に質問する来場者】

社会・時事

台湾で国際半導体展「SEMICON Taiwan 2024」が開催

9月2日～4日、台北市内の南港展覽館で国際半導体展「SEMICON Taiwan 2024」が開催された。同展示会は世界最大規模の半導体展であり、今年の出展者数は950社、来場者数は約62,000人。会場内には日本を含む各国のブースがひしめいており、世界の半導体産業の中心地・台湾ならではの活況を呈していた。

日本の自治体では、世界最大手の半導体ファウンドリーであるTSMCの日本工場が建設されている熊本県や、2023年に「半導体・オブ・ザ・イヤー」を獲得した佐賀大学を擁する佐賀県等が出展していた。佐賀県の担当職員の方に話を聞いたところ、九州全体で半導体産業を推進している一環で、台湾の半導体関連企業を佐賀県へ誘致することを目的として出展しているようだ。ただし企業の誘致には、広大な用地・豊富な資源・優秀な人材・優遇施策などの様々な要素が必要であるため非常に難易度が高く、実績はまだないとのことであった。

また9月5日には、現在日本と台湾を行き来している仙台市の職員の方のお話を伺うことができた。今後、半導体関連で国立陽明交通大学に着任予定だそうだ。国立陽明交通大学には、東北大学で半導体の研究をされていた教授がおり、東北大学と国立陽明交通大学の共同研究などを取り仕切られているという。弊所に半導体関連の相談があった場合には協力をお願いできないかと打診したところ、可能な範囲で協力いただけることになった。

台湾の基幹産業である半導体だが、明るい話題ばかりではない。SBIホールディングスとPSMCの提携解消など、雲行きが怪しい報道もある。今後の動向を注視していきたい。



【SEMICON Taiwan 2024 会場】

台湾駐在員報告

駐在員：市川 美奈子

行政

沖縄県台湾事務所との合同観光セミナー開催

弊所は10月19日、沖縄県産業振興公社台北事務所（以下「沖縄県事務所」）と合同観光セミナーを開催した。同セミナーには訪日旅行に興味のある台湾人など約200名が参加した。

台湾に設置されている日本の都道府県の事務所は、弊所と沖縄県事務所の2つのみである。弊所では県事務所として日々情報発信を行う中で、日本のアウトドア資源に関心のある台湾人が多いと感じたため、沖縄県事務所へ合同セミナー開催を打診した。その結果、「日本の山（富士山）と海（沖縄の海）」をテーマとするアウトドアセミナーの開催が実現した。

沖縄県は、沖縄県でダイビングショップを経営する黄春源氏を講師に迎え、美しい海を舞台としたマリンアクティビティを中心に紹介を行った。特に、海中を撮影した動画は多くの参加者の関心を集めていた。本県は、日本の国家資格である全国通訳案内士であり、フォロワー数12万人のFacebookページ「日本旅人塾」を運営するMEGUMI氏が、世界遺産である富士山をメインに、豊かな自然や文化資源を紹介した。

セミナー参加者を対象に事前に実施したアンケートによると、約98%の方が1年以内に日本へ旅行する予定があり、約75%の方が興味のある観光コンテンツに「富士山」を挙げていた。今後も台湾人観光客の興味関心に沿ったPRを実施していきたい。



【セミナーの様子】

社会・時事

台湾から本県への延べ宿泊者数、累計10万人超え 2019年同期比183.2%

2022年、国際航空運送協会（IATA）のウィリー・ウォルシュ事務局長は全世界の観光客往来について、「2024年には2019年の水準を上回る」と予測していた。その発言のとおり、今年に入ってから訪日外客数が著しく回復している。日本政府観光局（JNTO）は10月16日、今年1～9月までの訪日外客数の累計が26,880,200人で、前年の年間累計である25,066,350人を上回ったと発表した。

県内の宿泊者数をみると、今年1～7月までの台湾から本県への延べ宿泊者数は113,960人泊で、2019年同期比183.2%。コロナ前の2倍近くになっている。コロナ前は年間約10万人で推移していたが、今年は7月までの7か月間で、既に10万人を超えている。なお、2023年年間の本県の伸び率は全国平均を上回っているという嬉しい状況だ。これもひとえに訪日外客の受入に尽力されている関係者の皆様のおかげであり、心から感謝を申し上げたい。

一方で、日本人観光客の出国者数は2019年同期比で63.0%となっており、コロナ前と比べて6割ほどにとどまっている。台湾の観光関係者からは「多くの台湾人が日本に行っているのに、日本人は台湾に来てくれない」と恨み節を聞かされることが多い。

台湾政府は外国人観光客の回復を目指し、日本円にして25,000円相当が抽選で当たるキャンペーンや、台湾高速鉄道を2人で乗車した際に1人分が無料となるキャンペーンを行っている。この機会にぜひ台湾に足を運んでいただきたい。

- 個人旅行者対象/NT\$5000 プレゼント抽選キャンペーン

<https://go-taiwan.net/ikutabi/archives/4569>

- 「外国人観光客2人で台湾高速鉄道（台湾新幹線）乗車1人無料」キャンペーン

<https://go-taiwan.net/ikutabi/archives/12159>

台湾駐在員報告

駐在員：市川 美奈子

行政

高雄の台湾糖業博物館で鈴木藤三郎展が開幕

弊所は11月15日、高雄市にある台湾糖業博物館で行われた鈴木藤三郎特別展開幕記念式典に出席した。式典当日はあいにくの雨模様だったが、台湾糖業関係者のほか、台北駐日経済文化代表処の前駐日代表の謝長廷氏や森町の太田康雄町長なども出席し、盛大な式典が執り行われた。

鈴木藤三郎氏は森町出身。国内初の製糖会社「日本精製糖株式会社」を設立し、のちに台湾製糖株式会社の初代社長に就任した人物だ。日本と台湾の双方で製糖業の礎を築き、台湾南部の近代化に大きく貢献したと言われている。1999年まで稼働していた工場の跡地は現在台湾糖業博物館として再整備され、複合型の娯楽施設に生まれ変わっている。

台湾糖業博物館内には、鈴木藤三郎氏が建立した「黒銅聖観音」があり、今でも地元の人々に親しまれている。2022年には、建立120周年を記念した式典が開催された。今回の式典も、参加者全員による黒銅聖観音への合掌と読経から始まったのが大変印象的であった。

鈴木藤三郎特別展は、2025年5月27日まで開催されている。この機会にぜひ足を運ばれてはいかがだろうか。



【鈴木藤三郎特別展記念式典】

経済

台湾の人気居酒屋とレストランで「静岡美食フェア」等が開催

2024年11月1日から2025年2月28日まで、台湾の人気居酒屋「ABV日式居酒屋」計3店舗で、静岡美食フェアが開催されている。

同フェアは、今年9月にABV日式居酒屋から弊所に「静岡の郷土料理を紹介するフェアを開催したい」と相談があったことがきっかけとなり実現した。ABV日式居酒屋のスタッフが試作を繰り返し、弊所職員と意見を交わしながら完成した「桜えびのかきあげ」「うなぎ茶漬け」などの計10品が、第1弾（11月1日～12月31日）、第2弾（1月1日～2月28日）の2回に分けて提供されている。10月30日にはABV日式居酒屋中山店（台北市）で、台湾在住メディアを対象とした記者発表会が行われた。舌の肥えた記者の方々が、静岡の味が丁寧に再現された料理を「すごくおいしい」と喜んで食べてくれる様子は、感無量であった。

また2024年11月14日から12月15日までは、創作和風洋食で人気のレストラン「ロイヤルパーク」計11店舗において「Shizuoka Tea Feast 茶韻風華」が開催されている。同フェアは静岡県中部地域5市2町の事業として実施されたもので、静岡茶を使った特製スイーツやドリンクに加え、台湾初登場の「静岡ほうじ茶麺」が提供されているのが特徴だ。ほうじ茶麺は台中市の松園食品が藤枝市の「TEA SEVEN」のほうじ茶粉を使って製造しており、日台共同で開発されたメニューである。

どちらのフェアのメニューも、関係者たちがアイデアと努力を惜しみなく注いだ結果、世に送り出されている。期間中に台湾にお越しの際には、ぜひご賞味いただきたい。



【静岡美食フェア記者発表会】